

金澤古蹟志卷廿三

城西堤町筋

○石浦町

此の町は、金澤本町廿七町の一町にて、十二冊定書に載せたる金澤通町筋町割附に、貳町三十間石浦町とあり。この町名は、元和元年九月利常卿の印書にも石浦町と載せられたり。

○石浦町來歴

舊傳に云ふ。石浦町は、往昔石浦村の村跡なり。石浦村は、石浦庄七ヶ村の一村にて、村落二十ヶ所に分れ、上石浦は今云ふ百姓町の地に村家あり、下石浦は今石浦町の地に村家あり。又石浦神社は石浦山王と稱し、今長町三番町淺加・由比兩氏の舊邸の地にありしといへり。明治二年石浦慈光院の上申書にも、石浦村は、上下に別れ、今之石浦町に下石浦村、百姓町に上石浦村有之、上一在所也。と見ゆ、高

澤忠順の金澤事蹟必録に、今の安房殿町より長町へかけて、法船寺馬場の邊まで、昔の石浦村の地なり。此の村地、今は悉く武士工商の屋敷と成る。といへり。さて堤町・南町・金屋町以下八町は、佐久間盛政金澤在城の頃建てたる町屋にて、是も尾山八町と呼び、金澤府下の本町とし、石浦町は利長卿の時定められたる半役町七ヶ所の一町にして、むかしは本町にあらず。按ずるに、今石浦町は、南町・堤町と繼きたる本通りの本町なれば、利長卿の時半役町七ヶ所の中へ加へられしものは、其のさき南町・堤町などの本町共は、金谷出丸の地にありて、城際の通り町なり。故に佐久間氏の時代より、尾山八町の中にて本役の町とす。南町・堤町の金谷の地にありし頃は、往來筋今と異りしゆゑ、石浦町の地と繼かず。石浦町は石浦の村地にて、そのかみは南町・堤町の裏地なりしかど、金谷出丸出來せし頃、南町・堤町をば今の如く町地を移轉したるため、石浦町と町繼きに成りたり。故に今の如く通筋となりたるにより、本町廿七町の中へ入りたるなり。元和元年九月利常卿の印書に、石川郡之内袋畠村永不作之内、先年利長卿御在判にて新開